

2019年8月25日

## 福音書からのメッセージ

狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。

(ルカによる福音書 13 章 24 節)

「狭い戸口から入るように努めなさい」。イエス様のこの言葉は、ある人の質問を受けて語られたものです。一人の人が質問します。「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」。このような質問に対して、普通どのような答えが予想されるのでしょうか。

「少ないのでしょうか」と聞かれたわけですから、「そうだ、少ない」、「いや、多い」、このいずれかが適切な答えだと思います。また「わたしにもわからない」というものもあるかもしれません。たとえば「そうだ、少ない」と言われたら、「じゃあわたしはその中に入っていますか」と聞きたくなります。逆に「いや、多い」と言われたら、安心して家に帰ることができる。でも彼の耳に届いた答えは、予想していなかったものでした。「狭い戸口から入るように努めなさい」。

今日の福音書の後半には、このような言葉があります。「あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されることになり…」。アブラハム、イサク、ヤコブとはユダヤ人の祖先です。旧約聖書にも名前が出てくる人たちです。そのユダヤの祖先たちが神の国に入っている。だから自分たちユダヤ人も、神の国への道が開かれている。ユダヤ人はそう思っていました。しかしそうではないのです。ユダヤ人だからといって、神の国に入れるとは限らない。それどころか、東から西から、南から北から来た人たち、簡単にいうと異邦人が、神の国で宴会の席に着くというのです。



一緒に食べたり飲んだりしたからといって、広場で教えを

受けたとしても、ユダヤ人だろうと、それが何になるのかとイエス様は言われています。わたしたちもそうです。教会に行っているから、クリスチャンホームに育ったから。だからわたしこそ神の国にふさわしい。そのように考えるときに、わたしたちの前にある戸口の戸は閉められてしまうのではないのでしょうか。

イエス様が言われる「狭い戸口」、それは人がやっと入れるようなものなのかもしれません。みんなで一緒に手をつないで、入ることができないのです。一人一人の決断が求められるのです。

イエス様は言われます。あなたたちも自分の十字架を負い、わたしに従いなさいと。イエス様が身をかがめ、腰を曲げ、十字架を引きずりながら進む道の後に、狭い戸口が開かれるのです。わたしたちはそこを目指して、歩いて行くことが求められているのではないのでしょうか。

イエス様はわたしたち一人一人に語られます。「あなたはわたしについて来るのか」、「あなたはどうするのか」。

その声に、わたしたちはどう答えるのでしょうか。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>